



文化財通信くまもと



第22号
平成17年3月
熊本県
教育委員会

新指定文化財について

平成15年度は新たに国指定史跡2件、県指定重要文化財3件、県指定重要民俗文化財1件、国登録文化財20件が追加され、平成16年度は国指定重要文化財1件、県指定重要文化財2件、県指定重要無形文化財1件、県指定名勝1件、国登録文化財4件が追加されました。

(平成17年2月28日現在)

国指定史跡 豊前街道南関御茶屋跡

おぜんかいどうなんかんおぢやあと



所在地 玉名郡南関町大字坊田

指定日 平成15年8月27日

江戸時代、参勤交代などに藩主の休憩や宿泊のために設けられた施設で、写真の御茶屋は嘉永5年(1852)に建てられたものです。

豊前街道の熊本県内最後の御茶屋で、当時の姿をよく残した遺跡として指定を受けました。御茶屋自体の存在は江戸時代初期の記録にも出ていますので、もっと古くからあったことが分かります。昨年度からの復元工事によって当時の姿が蘇っています。

国指定史跡 鞠智城跡

すくちじょうあと



所在地 山鹿市菊鹿町・菊池市

指定日 平成16年2月27日

『続日本紀』(698年)にも登場する古代山城で、7世紀後半に大和朝廷が築いたものです。近年の発掘調査により八角形建物跡・貯水池跡・門跡・土塁など施設の跡や米の荷札と考えられる木簡などが発見されました。これまで熊本県指定史跡として著名でありましたが、面積5.5haにも及ぶ規模、礎石などの残存状態が大変良好であり、調査の成果と併せて大変重要な遺跡であるということから国の史跡の指定を受けました。

国指定重要文化財(建造物) 旧郡策新地甲号樋門 一基

きゅうぐんさくしんちこうごうひもん



所在地 八代市郡策二番町地先～郡策五番町地先

指定日 平成16年7月6日

旧郡策新地甲号樋門は、明治期に八代郡役所が干拓を行った新地に設けられた樋門です。熊本県技師川口虎雄の設計に基づき建設されました。事業当初に建設された樋門で八代海干拓事業の代表的遺構として歴史的に価値が高く、樋門壁面の切石積に精巧で緻密な技術が發揮された我が国でも最大級の干拓樋門です。

煉瓦造10連アーチ式通水部の上方及び左右には切石を積み上げたもので、樋門の海側には南北約1kmにわたり石積瀬戸堤防とともに指定を受けたものです。

県指定重要無形民俗文化財 梅林天満宮流鏑馬



所在地 玉名市梅林地区
指定日 平成16年4月19日

梅林天満宮の秋の例大祭に合わせて例年11月25日に神社正面の馬場において奉納される流鏑馬行事で、地元では「ヤクサンドン」の名称で親しまれています。寛永18年(1641)の社領目録に「流鏑馬田」の記載があり近世前期にはすでに開催されていたことが確認される伝統的な行事です。津留、安楽寺、下の梅林地区内の3地区によって輪番で奉納されており、例年24日の「精進小屋入り」の行事に始まり26日の「節頭渡し」まで一連の行事が行われます。25日の夕刻が行事の本番で、馬場の3カ所に設けられた椎の厚板で作られた的を馬上の射手が次々に矢で射ていきます。的の一部は観客が持ち帰ることが許されており縁起物として人々に珍重されています。

県指定重要文化財(建造物) 来光寺の五輪塔



所在地 熊本県玉名郡南関町大字豊永4324番地
指定日 平成16年4月19日

来光寺の五輪塔は、もと時宗の寺院と伝えられる来迎寺の跡の石塔で、建治2年(1276年)と文保元年(1317年)の銘文が刻まれております。鎌倉時代の五輪塔の代表的なものです。

五輪塔は、空輪、風輪、火輪、水輪、地輪の各部からなり、大日如來の坐像を塔型にしたもので、二基とも高さ約140cmで保存状態もよく、造形的に優れた塔であるとともに熊本県の時宗の布教の状況を知るうえで貴重な史料です。

県指定名勝 水島



所在地 八代市植柳下町字水島50番
指定日 平成16年10月22日

不知火海(八代海)に面した球磨川の河口に位置する東西93m、南北37mの小島で、不知火海と天草の島々を背景とした美しい景観の島です。『日本書紀』には、景行天皇がこの地を訪れた時に島から湧き出た水を献上した故事から「水島」と名づけられたとの記録があります。このほか万葉集の長田王の「聞くが如まこと尊くも神さび居るかこれの水島」(巻三・二四五)等の和歌でも有名で、すでに奈良時代に水島の名が中央にまで聞こえ、我が国を代表する名勝の島として認知されていました。

化されることになりましたが、万葉の古蹟が失われることを恐れた国学者和田蔽足の建議により工事計画が変更され、現在でも美しい島としての姿を現地にとどめています。

県指定重要文化財(建造物) 御館御門橋



所在地 熊本県人吉市麓町36番地
指定日 平成16年10月22日

御館御門橋は、明和3年(1766年)に人吉城内の相良氏御館への入口として濠に架けられた石橋で、長さ18.25m、幅5.75mあります。

橋脚の根元に砂利を敷いた上に幅1m角の石を置き計12本の八角形の橋脚で床版を支えています。御館御門橋は年号の判る石造の桁橋では県内最古のもので、規模においては本渡市にある国重要文化財「祇園橋」に次ぐ大型の石造桁橋です。当時の石工の技術とともに相良藩の普請奉行を中心に郡民総出により建設された貴重な石造桁橋です。

登録有形文化財 熊本学園大学産業資料館(旧熊本紡績電気室)



所在地 熊本市大江二丁目1903番地2

指定日 平成16年7月23日

構造 鉄筋コンクリート造、瓦葺、建築面積118m²

熊本学園大学産業資料館は、明治27年に熊本紡績株式会社の電気室として建設され、平成14年に閉鎖するまで1世紀以上にわたり活用されたものです。

近代化を支えた明治期の紡績工場は、ほとんどその姿を消し、明治20年代の工場建築が現存するのは珍しいものです。今回は工場解体に伴い高度な技術を要し、煉瓦壁、小屋組屋根等の移築復元工事が実施され「熊本学園大学産業資料館」として活用されています。

登録有形文化財 マミフラワーデザイン熊本教室花峰館

(旧鐘淵紡績熊本工場診療所)



所在地 熊本市河内町岳字茶碗山1844番地356、365

指定日 平成16年7月23日

構造 木造平屋建、寄棟造、棗瓦葺、建築面積119m²

マミフラワー花峰館は、明治44年鐘淵紡績(株)熊本工場内に新築された診療所です。平成14年度まで使用されたもので、工場解体に伴い移築され「マミフラワーデザイン熊本教室花峰館」として活用されています。

建物の外観は、明治期の外壁の特徴を示す下見板張りの洋風建築で、内装は高い天井や床高、回転欄間付きの窓など明治期の病院建築の手法で作られて、当時の医療事情や病院建築を知るうえでも貴重な資料です。

登録有形文化財 龍驤館



所在地 宇土郡三角町大字三角浦1320番地22

指定日 平成16年11月8日

構造 木造平屋建、瓦葺、建築面積234m²

龍驤館は、大正7年に明治天皇即位50周年記念に、宇土郡教育委員会が郡立図書館として建設したものです。中央のホールのある棟の南面両隅みに、テラスで結ばれた6m四方の方形平面の二棟を配っています。屋根は、寄棟造で、外壁は明治期の外壁の特徴を示す下見板張りです。修復工事や内装の改装等も行われ、現在は多目的なスペースとして使用されています。

登録有形文化財 旧三角海運倉庫(三角築港記念館)



所在地 宇土郡三角町大字三角浦1268番地1

指定日 平成16年11月8日

構造 土蔵造2階建、瓦葺、建築面積168m²

旧三角海運倉庫は、国指定重要文化財(建造物)の三角旧港(三角西港)が最も繁栄した時に数多くの倉庫が並んでいた内の1棟です。

明治20年代の築港当初から荷揚げ倉庫として建設され、旧三角町で昭和63年に復元修復工事をを行い、築港記念館としたものです。この建物は、切妻屋根の土蔵造りで、当時の繁栄を偲ばせる貴重な建築物です。

平成15・16年度の国、県指定の文化財一覧 (平成17年2月28日現在)

国指定

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期 設立時期	指定年月日	備考
史跡	豊前街道南関御茶屋跡	南関町	参勤交代休憩所	江戸	平成15年8月27日	新指定
	鞠智城跡	山鹿市 菊池市	古代山城	古代	平成16年2月27日	新指定
史跡	熊本藩主細川家墓所(妙解寺跡)	熊本市	大名墓地	江戸	平成16年9月30日	追加指定
重要文化財	旧郡策新地甲号橋門	八代市	干拓橋門	明治	平成16年7月6日	新指定

県指定

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期 設立時期	指定年月日	備考
重要文化財	掲行道	熊本市	宮本武蔵の自誓書	江戸	平成15年9月12日	新指定
	紙本著色宮本武蔵像	熊本市	宮本武蔵の肖像	江戸	平成15年9月12日	新指定
	宮本武蔵書状	八代市	宮本武蔵の書状	江戸	平成15年9月12日	新指定
重要民俗文化財	妙見宮祭礼神幸行列関係資料	八代市	笠鉾など	江戸	平成15年4月16日	新指定
重要文化財	来光寺の五輪塔	南関町	五輪塔	鎌倉	平成16年4月19日	新指定
	御館御門橋	人吉市	石橋	江戸	平成16年10月22日	新指定
重要無形民俗文化財	梅林天満宮流鎮馬	玉名市	流鎮馬	—	平成16年4月19日	新指定
名勝	水島	八代市	名勝地	—	平成16年10月22日	新指定

国登録

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期 設立時期	登録年月日	備考
登録有形文化財	旧矢岳駅駅長官舎・井戸	矢岳町	木造平屋建、瓦葺、建築面積83.63m ² 、井戸石造	明治42年 (1909)	平成15年7月1日	登録2件
"	梅林天満宮 本殿・拝殿・楼門・鳥居	玉名市	木造、入母屋造銅板葺、石造明神鳥居	江戸	平成15年9月19日	登録4件
"	旧山江村役場庁舎	山江村	木造2階建、瓦葺、建築面積233m ²	昭和12年(1937)	平成15年12月1日	
"	旧国鉄宮原線 廣平橋梁	小国町	コンクリート造9連アーチ橋、橋長80m	昭和12年(1937)	平成16年2月17日	
"	" 普追橋梁	小国町	コンクリート造11連アーチ橋、橋長136m	昭和12年(1937)	"	
"	" 堀田橋梁	小国町	コンクリート造4連アーチ橋、橋長46m	昭和13年(1938)	"	
"	" 汐井川橋梁	小国町	コンクリート造3連アーチ橋、橋長36m	昭和13年(1938)	"	
"	" 堂山橋梁	小国町	コンクリート造3連アーチ橋、橋長36m	昭和13年(1938)	"	
"	" 北里橋梁	小国町	コンクリート造5連アーチ橋、橋長60m	昭和13年(1938)	"	
"	" 幸野川橋梁	小国町	コンクリート造6連アーチ橋、橋長116m	昭和14年	"	
"	宮原町まちづくり情報銀行(旧井芹銀行本店)	宮原町	RC造2階建、建築面積106m ²	大正14年(1925)	"	
"	宮原町まちづくり酒屋(旧井芹家住宅)主屋・土蔵他	宮原町	木造2階建、瓦葺、建築面積281m ²	天保3・明治6年	"	登録5件
"	熊本学園大学産業資料館(旧熊本紡績電気室)	熊本市	鉄筋コンクリート造瓦葺	明治27年	平成16年7月23日	
"	マミフラワーデザイン熊本教室花峰館(旧鍾紡精績診療所)	熊本市	木造平屋建で、寄せ棟造り、桜瓦葺	明治44年	平成16年7月23日	
"	旧三角海運倉庫(三角築港記念館)	三角町	土蔵造2階建、瓦葺き、建築面積168m ²	明治20年頃	平成16年11月8日	
"	龍驤館	三角町	木造平屋一部2階建、瓦葺き、及び銅板葺き、建築面積234m ²	大正7年	"	

平成15・16年度 発掘調査、整理遺跡紹介

上小田宮の前遺跡 ~古代祭りのなぞをとく~

上小田宮の前遺跡は、平成13年6月から平成16年3月まで、県道瀬川玉東線の道路整備のための工事に先だって発掘調査がおこなわれたものです。菊池川左岸にあり縄文時代から近世までの遺物が出土しましたが、中でも古墳時代の終わりから古代にかけての土器や土製品が多く溝状の遺構の中から出土しました。特徴的な遺物としては、土でつくった勾玉や手づくりの小さな杯、穴のあいた円盤状の石製品などがありますが、古代の祭りに使われたものと思われます。発掘された遺物や遺構から、台地状の場所に集落や道路をつくり、平坦部で耕作をし、川に近い場所では祭祀(祭り)を行っていたようです。菊池川流域に生活した昔の人々の土地利用と生活の様子が想像できます。現在、報告書作成に向けて遺物の整理や詳しい分析を行っているところです。

(廣田)



出土遺物

北の崎遺跡 ~弥生時代から古代の集落跡~



北の崎遺跡全景

北の崎遺跡は、平成15年6月から平成16年11月にわたって、木葉川の河川改修工事にともなって発掘調査が行われた遺跡です。調査面積は約7,600 m²あります。旧木葉川の段丘部に位置し、弥生時代中期から中世(鎌倉時代から室町時代)までの多くの遺構及び遺物が発見されています。遺物の量はコンテナ620箱にも及びます。検出した遺構は弥生時代中期から古代(奈良時代から平安時代)にかけての竪穴住居52軒、土壙78基、掘立柱建物跡1棟等です。また、中世の遺

構としては、軍事目的につくられたと考えられる幅2m、深さ1.7mの溝が確認されています。特に弥生時代中期では、台地の中央に住居があり、住居を取り囲むように、お墓が台地の周辺部から発見されました。住居域と墓域とが当時から区画されていた様子がわかります。また、住居からは、弥生式土器のほか、石戈(柄の先端に石製の短い剣状のものを取り付けた武器)などが出土しています。(馬場)

にほんぎたささいせき 二本木田崎遺跡 ～スライムがあらわれた！～



井戸跡出土遺物

二本木田崎遺跡の弥生時代の井戸跡から土器がかたまって発見されました。井戸の底に土器をまとめて置き去るのは、水を与えてくれた井戸に感謝のお祭りをしたのだ、と考えています。この置き去られた土器は、壺や壺など様々な形のものがあります。およそ2100年ほど昔の土器がワンセットそろった、と考えてよいでしょう。

そんななかに、ヒョウタンの形をした土器がありました（写真中央）。TVゲームのスライムのように見えますね。ふ

くらんだ胴には窓がくりぬかれ、とがった先は筒になっています。全体にていねいにみがかれ、欠けた部分はありません。このような形の土器は、熊本では新発見、西日本でも数例が知られています。

いったい、何に使われていたのでしょうか？

井戸のお祭りに使われたこと、先端が注ぎ口になっていることをヒントにすれば、御神酒を入れたのかも…。でも、その答えは現在は謎のままです。（宮崎）

やしままちいせき 八島町遺跡 ～弥生時代の青銅鏡を発見～

八島町遺跡は、平成14年6月6日から平成15年10月31日にわたって、九州新幹線建設工事におけるJR運転所移設工事にともなって発掘調査が行われました。

調査面積は約2,800m²ありました。この遺跡は、坪井川の左岸、河岸段丘上にあります。今回の発掘調査によって、2.26大水害で埋まった土の下から弥生時代後期の集落跡が確認されました。

見つかった遺構は、竪穴式住居跡が80軒、掘立柱建物跡が4軒、溝状遺構が7条、土壙が10基の他、多量の遺物が出土しました。

主な遺物としましては、当時の人々が煮炊きに使った土器『脚付壺』、稲穂を刈り取るための石器『石包丁』、青銅製の鏡『小型鏡』等があります。特にこの青銅鏡は、お隣の韓国で、見つかった物とよく似た形を持つことから、大陸で作られた可能性があります。

このように、遺跡の発掘では、思いも掛けない貴重なものが見つかることがあります。これらを調べ、記録していくことがとても大事です。（坂口）



出土した青銅製鏡

くまもとへいやじょうりあと 熊本平野条里跡～弥生時代中期の甕棺墓群などを発見！～

熊本市島町にある熊本平野条里跡は、九州新幹線建設に伴い発掘調査を行った遺跡で、熊本平野南西部、白川の南側にあります。

今回の調査で、12基の甕棺墓、土壙などが発見されました。甕棺墓は、2つの甕の口を合わせたもの、巨石や小型の土器を蓋にしたものがあり、その中から計8体の人骨が出土しています。その周辺にあった30基近い土壙からも人骨、歯や骨粉が出土しており、弥生時代中期（約2000年前）の墓地があったことがわかりました。また、16軒の堅穴式住居跡が見つかりましたが、出土した弥生土器の形などから、弥生時代後期（約1800年前）の集落もあったことがわかりました。

条里とは古代以降の整備された土地区画のことで、今回調査したところは後世の農耕などによる削平を受けていて残っていないことが分かりました。（今村）



出土した甕棺

にしかたそのだいせき 西片園田遺跡～弥生時代の木の道具たち～



1. 鋤 2. モミスクイ 3. 刈の鞘（きや） 4・5. 容器 6. 梯子 7. 用途不明品 容器（4、5）、建築部材（6）などで、その他に現在では使い途が分からぬ製品（7）もいくつかあります。容器などは、現在でも充分通用する形をしていると思いませんか？

どの製品も丁寧に一本の木を削り出して作っています。また、製品の用途にあわせて、使用する木の種類を使い分けているようです。

木の道具達は我々の想像以上に、先人たちが自然に対して豊かな知識を持ち、また豊かな精神世界を持っていたことを今に伝えてくれているかのようです。（増田）

西片園田遺跡は現在の八代地域振興局の東側にあり、平成14年から2年間発掘調査を行いました。その結果、弥生、古墳、中世といった各時代の土器などの他に、弥生時代（約1900年前）の木の道具や材料が数百点出土しました。

こうした木の道具は腐りやすく、なかなか残っていないのですが、ここでは大量の地下水で水浸けにされて現代まで保存されてきたようです。

出土したのは農具（1、2）、武具（3）、

6. 梯子 7. 用途不明品 容器（4、5）、建築部材（6）などで、そ

とうじたくせいいせき 頭地田口C遺跡～山と川に囲まれた生活～

五木村では、今までに、何度かの発掘調査が実施されました。その結果、色々な時代に人々が住んでいたことが分りました。古くは縄文時代から、古墳時代、鎌倉時代、江戸時代の住居の跡やその時に使っていた道具等がみつかっています。縄文時代の遺跡からは、川での漁の道具、山での狩りの道具がみつかっています。また、鎌倉時代や江戸時代の遺跡からは、佐賀県でつくられた陶磁器や中国から輸入された陶磁器がみつかっています。

山に囲まれて生活しながらも、他の地域とも密接に交流しながら生活していた様子が分かります。また、今まで、五木村の江戸時代の古文書などの記録はほとんど残っておらず、今も残っているお寺やいいつたえなどから想像するしかありませんでした。しかし、昨年の発掘調査の結果、鎌倉時代や江戸時代の建物跡がみつかり当時のムラの様子がそのままそこに出ました。今後、昔の五木村の様子が、より詳しく分かっていくでしょう。(帆足)



調査区全景

はなおかふるまちいせき 花岡古町遺跡～中世の村の様子がうかがえる～



平成15年度 調査区全景

県道芦北球磨線の整備事業にともなって発掘調査を行っています。場所は芦北町花岡で、戦国時代の山城のふもとにある集落です。調査の結果、鎌倉時代から戦国時代にかけて（今から約800～400年前）の村の跡があることがわかりました。とくに掘立柱建物と呼ばれる建物は規模の大きなものがたくさんあり、何回も建て替えをしながら住んでいたことがわかります。他に井戸や墓なども見つかっており、その中から中国より輸入した高級な陶磁器などがたくさん出土しています。

ます。中でも、青磁の碗などを納めた墓は身分の高い人のものと思われ、この遺跡は、この地域を治めた武士の館の可能性があります。

また、平安時代（今から約1100～800年前）の駅（伝令所）と思われる遺跡や、古墳時代（今から約1500年前）の村も古い地層に折り重なっています。この佐敷周辺は古くから政治や交通の中心地であり、人々の永い営みがあることを示しています。(水野)

いとうつるいせき 稻佐津留遺跡 ~弥生時代後期から古墳時代初頭の集落跡発見!~



現場撮影風景

玉東町稻佐にある稻佐津留遺跡は、九州新幹線建設に伴い発掘調査を行っている遺跡で、玉名平野の南側にあります。堅穴式住居跡、土壙、柱穴、道、溝などが見つかっており、弥生土器、古式土師器、須恵器などの土器が出土していることから、弥生時代後期から古墳時代、古代にかけての集落があったことがわかります。

特に平成16年6月から8月に調査したII区では、堅穴式住居跡から、多数の弥生土器とともに青銅製品が2例出土しました。

1つは、熊本県内で4例目となる巴形銅器（残存率2/5程度）で、脚部裏に縹衫紋が確認されています。もう1つは、鏡片（青銅鏡の破片、残存率1/5程度）で、後漢時代後期（約1800年前）の中国で作られた四乳細線鳥文鏡と考えられます。菊池川下流域の中心となる集落の1つと考えられ、とても貴重な発見と言えます。（今村）

しんなべいせきぐん 新南部遺跡群 ~古墳時代終末期の集落跡~

新南部遺跡群（熊本市渡鹿8丁目）は、白川の堤防建設に伴って、平成16年6月から11月までの約6ヶ月間、発掘調査が実施されました。標高約20mにあり、調査面積は約2,500m²でした。調査の結果、古墳時代終末期（7世紀前半：今から約1,400年前～1,350年前）の住居跡が15軒確認されました。堅穴住居跡は四角形で、4本の柱を立てた穴や竈の跡があり、内部から土器（焼き物）・鉄器（鉄の鎌や小刀など）・石器（砥石や糸を紡ぐ時に使用する紡錘車）が見つかっています。

白川の対岸にあるつつじヶ穴横穴群（古墳時代終末期の墳墓群）などと同じ時代の遺跡で、当時、白川を隔てて墓域と集落域が分かれていたことがわかりました。その他に鎌倉時代から室町時代にかけての畠の跡も見つかりました。（岡本）



住居跡全景

よんひゃくちょうひらさくういのう
四百町開旧堤防～文政2年の干拓堤防跡～



石列全景(北から撮影)

四百町新地は、文政2年2月に鹿子木量平等が、土手の築造に取り掛かり同年9月に潮流堤防が出来上がったと言われています。その後大潮により一度決壊しており、現在の大鞘池を取り囲む道路が決壊後に修復された築堤『大鞘廻し』ではないかと言われています。

今回の調査では、決壊した堤防の基礎部と考えられる石列が確認されました。石列は、幅およそ1.3m程で、南北方向に伸びています。石列の構造は溝状に掘られた中に、人頭大の石が納められて

いました。現在の工法ではアスファルト等で固めた基礎の上に、構造物を載せていますが、アスファルトの無い江戸時代には石積みで基礎部を作っていました。

今回の調査では、正確な図面等がない干拓堤防の構造解明に重要な発見となりました。八代平野はその多くが人々の手によって、人工的に作り出された土地です。この干拓により、八代地方は、飛躍的に米等の生産量が上がり、県全体の農業発展に大きく寄与しています。(坂口)

しんかんせんかんじん
新幹線関連の調査と整理作業

平成16年3月13日、九州新幹線新八代駅～鹿児島中央駅間に800系「つばめ」が走り始めました。これより遡る平成12年4月からおよそ3年6ヶ月、県文化課では八代市域での新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しました。その整理作業は今も文化財資料室で続けられています。

熊本県側の基点となっている新八代駅周辺の八代市西片町・上日置町では「遺跡」が調査され、弥生時代から古墳時代にかけての村のあと、そこに住んでいた人々のお墓などが確認されました。また出土した土器や石器や木器等は時代ごとに、少しずつ形や大きさ・作りの違いがあるため、整理作業ではその少しの違いも見落とすことなく観察しデータを記録します。

広々とした田園地帯のなかに突如出現した新八代駅舎には、旅行や通勤・通学のため多くの人たちが行き交う姿が見られます。しかしこの土地に、大昔の人たちの幾重にも重なった営みの跡があったことを知る人はほとんどいないでしょう。もし、駅舎に立ち入りホームに足を降ろす機会があれば、そんな歴史があったことを思い浮かべてください。(長谷部)



整理作業風景

平成15年度の調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	城ヶ辻古墳群	玉名市寺田城が辻	古墳	横穴式石室、土壙墓	須恵器、土師器
2	寺田山口遺跡	玉名市寺田	縄文、古墳、古代、中世	豪棺墓、掘立柱建物跡	須恵器、土師器
3	吉丸前遺跡	玉名市寺田	縄文、弥生、古墳、古代、中世	溝、豎穴住居跡、掘立柱建物跡	須恵器、土師器
4	瀬田池原遺跡	菊池郡大津町大字瀬田	旧石器、縄文	豎穴住居跡、土壙	縄文式土器、石器
5	健軍藤原遺跡	熊本市東町1丁目	縄文～中世	掘立柱建物跡、溝状遺構、土壙	弥生土器、陶磁器、瓦
6	二本木遺跡群(春日)	熊本市春日1丁目	古代、中世	溝、道路	須恵器、土師器
7	二本木遺跡群(田崎)	熊本市春日1丁目	弥生～中世	豎穴住居跡、溝、井戸	弥生土器、石器
8	熊本平野多里遺跡	熊本市鳥町	弥生	豪棺墓、土壙墓	弥生土器、石包丁
9	八島町遺跡	熊本市蓬台寺4丁目	弥生	豎穴住居跡、掘立柱建物跡	弥生土器、青銅鏡
10	南隣遺跡	宇土都不知火町小曾部	古墳、古代	土壙、溝状遺構	古代の土師器、須恵器
11	高良柳泊遺跡	宇土都不知火町高良	古墳、古代	土壙	古代の土師器、須恵器
12	宮地小畠遺跡	八代市宮地町字小畠	古代～近世	中世帯、掘立柱建物、土壙(中世)	古代の土師器、須恵器、青磁、綠釉陶器
13	宮地觀行寺遺跡	八代市宮地町字觀行寺	古代～近世	鍛冶遺構、溝	須恵器、土師器
14	花岡木崎遺跡	葦北郡芦北町花岡	古代	掘立柱建物跡	古代の須恵器、土師器
15	頭地田口C遺跡	球磨郡五木村甲字田口	古墳～近世	豎穴住居跡、掘立柱建物跡	土師器、須恵器、陶磁器
16	北の崎遺跡	玉名市安美寺	弥生、古墳、古代、中世	豎穴住居跡、土壙	弥生土器、須恵器、土師器
17	上小田宮の前遺跡	玉名市大字上小田	縄文～近世	豎穴住居跡、掘立柱建物跡	縄文式土器、土師器、玉類
18	玉名平野多里遺跡・岡迫闇日遺跡	玉名市玉名	弥生～近世	土壙、水路	弥生土器
19	玉名の平城遺跡	玉名市大字上小田	古代、中世	溝、溝、豎穴住居跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器
20	小野原遺跡	阿蘇郡阿蘇町狩尾	弥生	豎穴住居跡	弥生土器、石器
21	西片園遺跡	八代市西片町大字園田	弥生～中世	土坑、水路	木器、弥生土器
22	花岡古町遺跡	葦北郡芦北町大字竹下地内	中世	掘立柱建物跡、井戸	中世の青磁、白磁

平成16年度の調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	長山前田遺跡	玉名郡南関町長山	弥生・中世	掘立柱建物・溝、土壙	弥生土器、陶器
2	寺田山口遺跡	玉名市寺田	縄文時代～弥生時代・古代	掘立柱建物跡、土壙墓	縄文・弥生土器・須恵器
3	吉丸西遺跡	玉名市寺田	縄文、古代～中世	豎穴住居・掘立柱建物跡、炉跡	縄文土器、須恵器、黒曜石鉗
4	祭田下・太郎丸遺跡	玉名市留	古代～中世	土壙、溝	青磁板、中世土器
5	小園遺跡	玉名市石貴	弥生～中世	掘立柱建物跡、溝状遺構	弥生、古代、中世の土器
6	福佐津遺跡	玉名市玉名町福佐津留	弥生～古代	豎穴住居跡、土壙	巴形鏡、鏡片
7	瀬田池ノ原遺跡	菊池郡大津町	旧石器～弥生	豎穴住居跡、集石遺構	弥生・縄文時代の土器、石器
8	新南浦遺跡群	熊本市渡鹿8丁目	古墳・中世	豎穴住居跡・歐状遺構	須恵器、土師器、铁器、石器
9	江津湖・健軍京塚下遺跡	熊本市淵瀬・神水	古墳～中世	豎穴住居跡	古墳、古代の土器
10	花岡・日山遺跡群	熊本市横手	中世～近世	柱穴・土壙	土師器、陶器
11	御幸木部遺跡群	熊本市御幸木部	弥生・古代・中世・近世	豎穴住居跡・土壙墓・溝	弥生土器、須恵器、土師器、陶磁器
12	小曾部西遺跡	宇城市不破小町小曾部	古墳、古代	溝状遺構	古墳、古代の土器
13	四百町開旧堤防	八代都鏡町大字岡出	近世(江戸)	築堤防基礎	染め付け陶磁器
14	頭地下手遺跡	球磨郡五木村	縄文～中世	土壙	縄文時代の土器、石器
15	花岡木崎遺跡	芦北郡芦北町花岡	平安～中世	土壙、掘立柱建物跡	輸入陶磁器ほか
16	北の崎遺跡	玉名市安美寺	弥生～近世	豎穴住居跡、土壙、溝、掘立柱建物跡	弥生、古墳、古代の土器、石製品
17	玉名平野多里遺跡・岡迫闇日遺跡	玉名市玉名	弥生～近世	耕軒、水路、溝、豎穴住居跡	古墳～中世の土器
18	小野原遺跡	阿蘇郡阿蘇町狩尾	弥生	豎穴住居跡	弥生土器、铁器、石器
19	二本木遺跡群	熊本市二本木	古代～中世	溝状遺構、井戸	古代の土器、白磁青磁
20	牧崎遺跡	熊本市花園	近世	溝状遺構、水路	土師器皿等
21	新南部遺跡群	熊本市新南部	縄文～古代	溝状遺構	縄文土器、土師器、須恵器
22	大江遺跡群	藍本着立品寺	古代	豎穴住居跡、流路	土師器、須恵器
23	大江遺跡群	熊本市大江	古代	豎穴住居跡、道路状遺構	土師器、須恵器
24	小枝遺跡	球磨郡あさぎり町深田	縄文～中世	豎穴住居跡、道路状遺構、集石	縄文時代の土器、土師器、須恵器、石器
25	花岡古町遺跡	芦北郡芦北町花岡	古墳～中世	土壙、掘立柱建物跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器

文化財資料室の公開・普及活動について



企画展風景

文化財資料室では、文化財の保護・普及を目的に、さまざまな活動を行っています。この施設は熊本県文化課が行う埋蔵文化財発掘調査による出土遺物の整理・収蔵施設として設置されたものですが、膨大な量の出土遺物等の資料を活用するため、企画展を初めとする展示活動や、原始・古代をテーマにした体験学習会の開催、さらに中学生を対象にしたナイストライ（職場体験学習）事業の受け入れなどにも積極的に取り組んでいます。以下平成16年度に実施した主要な事業を紹介します。

1 企画展

前期企画展 原始古代の暮らしと道具シリーズ3―『発掘された縄文時代の編籠』

開催期間：平成16年4月1日～平成16年9月30日

後期企画展 原始古代の暮らしと道具シリーズ4―『初公開 発掘された木の道具展』

開催期間：平成16年10月1日～平成17年2月27日

2 体験学習会

『夏休み古代体験教室』平成16年7月22日～8月31日

平成17年度以降も開催しますのでご期待下さい。

3 ナイストライ（中学生職場体験）事業

平成16年度参加校

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 熊本市立龍田中学校 | 5 熊本市立西原中学校 |
| 2 熊本市立錦ヶ丘中学校 | 6 熊本市立桜木中学校 |
| 3 熊本市立武藏中学校 | 7 熊本市立湖東中学校 |
| 4 熊本市立帯山中学校 | 8 熊本大学教育学部附属中学校 |

今年度もナイストライ（中学生職場体験学習）を受付中です。

詳しくは県文化財資料室までお問い合わせ下さい。

交通機関のご案内



『夏休み古代体験教室』「古代写真館」撮影風景



ナイストライの様子

文化課ホームページ「くまもとの文化」<http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/index.html>

文化財通信くまもと 第22号 平成17年3月31日

発行：熊本県教育委員会文化課 Tel 096(383)1111

編集：熊本県文化財資料室 熊本市渡鹿3-15-12 Tel 096(363)8881 FAX 096(363)8314 新生社印刷株式会社

印刷：

16 教委 教文

④ 009